

国際協力特別賞

私の両親

善通寺市立西中学校 1年

山下 莉弥奈

私の父はマレーシア人でイスラム教徒です。日本ではイスラム教徒は少なく、あまりよく知られていないかもしれません。しかし、世界的に見ると三大宗教の一つです。イスラム教は宗教の戒律が厳しくて、豚肉を食べてはいけない、お酒を飲んではいけない、1日に5回、お祈りをしなければならない、1年に1回断食の月があるなどのきまりがあります。母は日本人で、一般的な仏教徒でした。そんな母とイスラム教徒である父が国を超え、宗教や文化や言葉の壁を乗り越えて結婚するという事は、とても大変なことだったと思います。

でも、今の父と母を見ていると、そんなに大変そうなことはなく、他の日本人同士の仲の良い夫婦と何も変わらないように見えます。それはどうしてだろうと考えてみると、どちらかがどちらか一方に合わせるのではなく、お互いに違いを理解し合って少しずつ歩み寄る努力をしているからではないかと思います。

例えば、母はマレーシア語を勉強し、父は日本語を勉強して、今では2カ国語で自由に話ができます。母はイスラム教徒になって豚肉は食べないし、お酒も飲みません。できる範囲で戒律を守る努力をしています。父はマレーシアを離れ、言葉も全く分からないまま日本に住み始め、そして働き、日本の文化になじめるようにずっと頑張ってくれています。

こんな父と母を見ていると、国や言葉や文化が違っても、お互いに理解し合う努力をし、お互いを尊重し、お互いを思いやり、少しずつでも歩み寄ることで仲良くやっていくことができるのだということがよく分かります。

先日、善通寺の偕行社で「JICA 出前授業」がありました。これはJICAの職員の方や青年海外協力隊の一員だった方から、海外の現状や海外での支援活動についての体験談をお聞きするというものです。

私の心に残っているのは、「開発途上国に支援に行ってあげたわけではありません。もちろん支援活動もしましたが、開発途上国の方からいろいろなことを教えていただきました。お互いに学び合うことができたのです。」という言葉です。ここでもやはり、互いを理解し、歩み寄ろうとする姿勢の大切さを学ぶことができました。

世界にはいろいろな国があります。戦争や紛争が続く国、貧しくて薬が手に入らないために多くの子どもたちが亡くなっている国、いまだに水道や電気がない国……。私の父や母のように国同士が歩み寄り、助け合っていく、それが輪となって広がっていけば、本当の意味で平和な世界になると思います。

私にはお手本である父と母がいます。私は父と母を見習って相手のことを認め、尊重できる大人になります。私には夢があります。それは将来、日本かマレーシアで医者になりたいという夢です。その夢の実現のために、もっと世界に目を向け、自分に力をつけ、多くの人の命を救える医者になりたいと思います。